

令和元年度 第1回

小国町総合教育会議会議録

小国町

令和元年度第1回小国町総合教育会議会議録

1. 召集年月日 令和元年8月22日(水)
1. 召集の場所 おぐに町民センター206号室
1. 開 会 令和元年8月22日 午前10時00分
1. 閉 会 令和元年8月22日 午前11時30分
1. 出席構成員
- |         |         |
|---------|---------|
| 小国町長    | 渡邊 誠次 君 |
| 小国町教育委員 | 田代 篤雄 君 |
| 小国町教育委員 | 梅田 聖子 君 |
| 小国町教育委員 | 横尾 祐輔 君 |
| 小国町教育委員 | 千明 和浩 君 |
| 小国町教育長  | 麻生 廣文 君 |
1. 欠席構成員 な し
1. 傍 聴 者 な し
1. 説明のために出席した職員の職氏名
- |                |         |
|----------------|---------|
| 小国町立小国中学校校長    | 家興 修一 君 |
| 小国町立小国小学校校長    | 荒木 完二 君 |
| 総務課長           | 小田 宣義 君 |
| 教育委員会事務局長      | 欠 席     |
| 総務課審議員         | 佐藤 則和 君 |
| 教育委員会事務局次長     | 久野 由美 君 |
| 教育委員会事務局学校教育係長 | 後藤 栄二 君 |
| 教育委員会事務局社会教育係長 | 宮本 竜二 君 |
1. 会議内容
- 1 平成30年度「小国の教育」チャレンジプランの検証について
  - 2 令和元年度の新しい取り組みについて

## 会議の経過及び顛末

### 1. 開 会

### 2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

### 3. 教育長挨拶

構成員：麻生教育長より挨拶

### 4. 出席者紹介

別紙「令和元年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

### 5. 令和元年度「小国の教育」チャレンジプランの検証及び令和元年度の新しい取り組みについて

麻生教育長より説明（※資料）

小国町立小国小学校荒木校長 説明

小国町立小国中学校家興校長 説明

### 6. 議 事

#### ◎教育委員さんからの要望等

・田代 篤雄委員・・・先生方が疲弊することのないように気持ちよく仕事できるように職員室内のコミュニケーションをとったりすることなど、目指す教職像のひとつとしてしてほしい。

●横尾委員・・・学力の向上を第一にすることだったが、家庭学習が学力の向上の一番の課題であるので、小国ノート等の活用方法をもっと考えてほしい。

⇒回答 小国中学校長（家興校長） 家庭学習の質の指導。例えば、8、9年生の優れた家庭学習の内容を掲示して、良い刺激として学習意欲の向上として取り組んでいる。課題は同学年同士の学力の上げ合い。また、授業でノートに板書した内容を家庭学習で補強に勉強すること。そのサイクルが必要と感じている。

小国小学校長（荒木校長）・・・優れた家庭学習を生徒に掲示し、いい刺激となるようにしている。

横尾委員・・・自由に好きな学科でさせているのか、又は今日は何の科目をするのか決めているのか。小国ノート等を使用することで、家庭学習の意欲向上に繋がるので、上手に活用してほしい。

小国中学校長（家興校長）・・・自分で自由にする分と、担任が指示する分のどちらも行っている。

●梅田委員・家庭学習は保護者・学校で協力して、行っていないと中学生になってからも習慣化しないと思う。低学年のころから学習できるように先を見据えた意識づけをしていくべき。虫歯治療率についても、子どもの健康としっかり向き合うことを保護者へ指導するべき。今まで取り組んできたが、なかなか治療に行かないことについても、学習面にもつながると思うので、長い目で見ながら健康管理から大切さを教えていく必要がある。

●千明委員・全国学力～結果が、成績が芳しくなかったが、その後実施した結果成績が上がったことについて、どんなことをしたのか。それを継続すれば、今後も向上していくのではないか。

⇒小国中学校長・新しい学年に上がって最初のテスト。生活リズムを整える、「思考 判断 表現」、資料読み取って文章にする力、計算力等慣れていないとなかなか難しいので、過去問を慣れるように解かせた。日々の授業の中でそのような力を付ける内容をしなければいけないと思う。多面的な情報を自分で判断して解いていく力を付けるのがとても重要かと思う。町長・教育現場はあまり変わらず、周りの環境はすさまじく変わっていく。それに追いつくわけではなく、教育現場は特に数学とか問題は正解があるが、教育の正解はどれが正解かわからないから、変わらないのだと思う。国際化と情報化社会は必ず必要ということは間違いないので、それに対応するというよりも、小国はこうしていきますというようなことを決めて実行していくことが必要。一般的に学校ですべきこととそれにプラスで小国学と英会話が重点的に行われている。また柴三郎博士のこともあるので、小国学の郷土愛を深めてもらおう。

また、周りの環境への適用能力。高校までの一貫教育は、小国から出た時の弊害がもしかしたらあるかもしれない。その部分も含めて、毎年毎年繰り返し替えしながら、次の年度へどうするかというのも考えていきたい。

町の財政支援を行っているが、効果的に支援できているか等答えを出すように。削ったりできる。現場の先生の意見、なかなか難しいが家庭の意見を取り入れる。学校と教育委員会とがしっかり連携をとること。

●田代委員・小学校の低学年の保護者等は、教育委員会の存在を知らないことが多い。実際に要望を上げればよかったというような事案があった。教育長、事務局等を含めて、教育委員へもっと相談したり等利用してほしい。

## 7. 閉 会

### 会議に使用した資料一覧

1. 令和元年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和元年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 資料1：教育総合会議：教育長説明資料)
  - ：小国小学校説明資料
  - ：小国中学校説明資料